

【英語】 < 中学校 第2学年 >

1 結果のポイント

「聞くこと」について、短い英文を聞いて、その英文が表している具体的な内容を正しく聞き取る力をみる問題や、自然な口調で話されるある程度まとまりのある会話を聞いて、その場面や話題等大まかな内容や要点を聞き取る力をみる問題では、正答率がほぼ80%を上回っている。英語による問いかけから相手が尋ねたい内容を正しく理解して、適切に応答する力をみる問題では、正答率が50%を下回っているものがある。

「読むこと」について、まとまりのある英文や会話を読み、具体的な内容を読み取る力をみる問題では、複数の問題の正答率が75%を上回っている。

文章や会話の流れを理解して、文脈に合うように適切な英文を選択したり、状況に応じて適切に応答する表現を選択したりする力をみる問題では、正答率が60%を下回っている。

「書くこと」について、英文の構造を理解して正しい語順で書く力をみる問題では、正答率が70%を上回っているものがある。

伝えたい内容が正しく伝わるように適切な表現を用いて書く力や、一つの話題について読み手を意識しながらまとまりのある英文を書く力をみる問題では、正答率が50%を下回っている。

2 結果の分析

(1) 大切な内容を聞き取る力をみる問題の例

< 問題 > 3 の2(1)(テープ問題)

これから放送する英文は、ジェフ(Jeff)と友達のケン(Ken)が昨日のできごとについて会話をしている時の様子です。よく聞いて、次の問いに答えなさい。答えは、最も適切なものをA～Eの中から一つずつ選び、その符号を書きなさい。会話は2回放送します。

(1) ジェフは昨日、何をしましたか。

(放送文)

A : Did you have a good time yesterday, Jeff?

B : Yes, I went to the library to read some books about Japanese festivals.

A : Oh, Japanese festivals? In this town, we have a big festival. Do you know that?

B : No, I don't. Please tell me about the festival.

A : Well, we have many shops around the station and many people dance in the park.

B : That sounds nice. Did you dance last summer?

A : Yes, I did. There are some pictures of the festival at home. Please come to my house and see them.

B : Thank you. I want to see them and I want to dance.

ア 駅の近くの公園でおどった。

イ 図書館で日本の祭りの本を読んだ。

ウ 書店で祭りの本を買った。

エ 駅の近くで買い物をした。

< 結果 > 正答率 91.5% (正答...イ)

< 分析 >

この設問は、会話を聞いて、その話題や内容等大切な部分を聞き取る力をみる問題である。ここ数年間正答率が高まってきており、本年度は90%を上回った。

これは、授業における教師の英語使用量が増えていることや、ALT等を活用して生徒の興味・関心をひくような内容でまとまりのある英語を聞く機会を多く設定し、視点を与えて聞き取らせる指導を大切にしてきたことが反映されていると考える。

一方、1のように問いかけに適切に応答する力には依然として課題がある。今後は、ある一つの事柄について正確に聞き取るだけでなく、場面や状況に応じて話し手の意向を理解し、適切に応答する力を付ける指導の充実が必要である。

(2) くわしい内容を読み取る力をみる問題の例

< 問題 > 4 の3

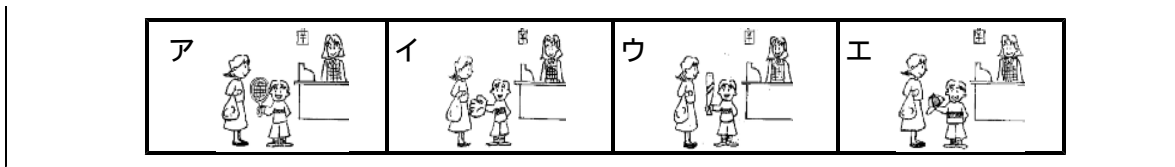
3 トム(Tom)とお母さん(Mom)は何を買おうとしていますか。

Tom : Look at this, Mom! I want this one. We will have a big game next month.

Mom : No, no. You have one, Tom.

Tom : But Mom, mine is small, so I can't catch a ball very well. I will be a good player with this.

Mom : Well, OK. (注) player : 選手 this one : これ



<結果> 正答率 90.8% (正答...イ)
 <分析>

この設問は、英文や会話文を読み、そこで話されたり書かれたりした具体的な内容を正しく読み取る力をみる問題である。正答率をみると、ここ数年間安定した力を示し続けており、本年度は90%を上回った。We will have a big game next month.「来月大きな試合がある」ことや mine is small, so I can't catch a ball very well.「自分のものは小さくてうまくボールが取れない」ことに着目して、トムがほしがっているものはグローブであることが理解できている。

このことから、ある程度まとまりのある英文や会話文を読んで、書かれている英語と描かれている絵の状況とを比べながら詳細を理解する力は十分付いているととらえることができる。

(3) 会話の流れを理解する力をみる問題の例

<問題> 6 の1

次の会話が自然な流れになるように、()の中に入れるのに最も適切な英文をア～エの中から一つずつ選び、その符号を書きなさい。

1【教室でのロイ(Roy)とベン(Ben)の会話】

Roy: Ben, why are you so happy?

Ben: Because I can go to Hokkaido next Saturday. This is the first time for me.

Roy: Oh, nice! How will you go there?

Ben: () So I'll go there by train.

ア I like planes. イ I don't like planes. ウ I don't like trains. エ I don't want to go.

<結果> 正答率 50.3% (正答...イ)
 <分析>

この設問は、場面や会話の流れを理解して、前後関係から適切な表現を選択する力をみる問題である。

正答率は60%を下回っており、誤答はア、ウ、エがほぼ同数である。このことから、Soで始まる文につながることに着目できず、「列車で行く」理由としてふさわしいものが()内に入るという読み取りができなかったと考えられる。また、疑問文で用いられている will を選択肢の中に見つけようとして混乱してしまったことも考えられる。

同じように、前後関係から文のつながりを理解する力をみる問題として5の3や7の1があげられるが、これらの問題においても正答率は60%を下回った。

以上のことから、会話の流れを理解する力を一層付ける指導が必要であると考えられる。

(4) まとまりのある英文を書く力をみる問題の例

<問題> 8

あなたはアメリカにいるペンフレンドに、自分のふるさと(hometown)について書くことにしました。ふるさと(hometown)の中から紹介したい場所を一か所選び、その場所の様子が読み手に伝わるように、まとまりのある3文以上の英語で書きなさい。

<結果> 正答率 31.0% (正答...略)
 <分析>

この設問は、身近な話題について、書くべき内容を自分で考えまとまりのある英文を書く力をみる問題である。

2～3文の英文で書こうとしている生徒は80%程度みられる。しかし、正答率は昨年度に続いて50%を下回っている。誤答を分析すると、文と文のつながりがないものや、3文で何を伝えたいのかがはっきりしない英文が見られた。

このことから、書こうとする意欲や書く内容はもてているが、表現したい内容が読み手に正しく伝わるように文を構成する力は十分に付いていないと考えられる。

また、誤答の中には、動詞がなかったり綴りの誤りが多かったりして内容が伝わらない英文もあり、基本的な文法や語彙についての知識・理解が十分ではないことも考えられる。

ただ、10においては、70%程度の正答率が得られていることから、4～5語程度の語や語句が与えられている場合には、[主語+動詞+補語] [主語+動詞+目的語]といった文型を使って正しい語順で書く力は付いていると考えられる。今後はこの力を一層伸ばし、まとまりのある英文を書くことにつなげていくために、9で求められているような、具体的な場面設定の中で適切な語句や文型を使い伝えたいことを正確に書く力を付けていく指導が必要であると考えられる。

3 分析を踏まえた指導の改善

(1) 指導計画の工夫改善

生徒の実態把握・分析を反映して指導計画の見直しを！

- ・年度末、学期末、単元末において、生徒がどのような英語を使ってどのようなコミュニケーションを図るとよいのかを評価規準として指導計画に記述し、目指す生徒の姿を具体的にイメージする。
- ・第1学年時の本学習状況調査の結果や年度当初に見られる生徒の学習状況を把握するとともに、毎時間の授業を通して学習プリントやテストにおいて生徒が書いた英語を記録するなどして、学習状況を具体的に把握する。そこでみられるつまずきとその要因を分析し、課題を解決するために必要な指導事項を重点的に扱う単元の指導を工夫し、指導計画を常に見直す。

3年間を見通して、適切に応じる力、表現する力が身に付く指導を！

- ・今回課題となった、以下に示す指導事項を重点とする単元を抜き出し、付けたい力の一覧表を作るなどして、3年間で系統的・発展的に指導できるよう年間指導計画を見直す。
 - *「聞くこと」(ウ) 質問や依頼などを聞いて適切に応じること。
 - *「読むこと」(エ) 伝言や手紙などから書き手の意向を理解し、適切に応じること。
 - *「書くこと」(ウ) 自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように書くこと。
- ・その際、出口となる3年生で目指す姿を、具体的な英文とコミュニケーションを図る姿からイメージする。その実現に向けて、第2学年で定着を図る必要のある指導事項の具体的な内容や言語材料を明らかにし、言語材料を活用しながら実際にコミュニケーションを図る活動をきちんと位置付ける。また、第1学年の学習内容についても繰り返し指導し定着を図る。

(2) 指導方法の工夫改善

具体的な場を設定し、言語活動と文法を効果的に関連付けた指導を！

- ・第2学年では、自分の考えや気持ちを述べるのに有効な未来表現やto不定詞等について学習する。これらは、目的を明確にした場面設定の中で、実際に使用することを通して効果的に習熟を図ることが大切である。
- ・言語材料については、具体的に身近な場面を設定し繰り返し使用させる中で、一人一人が発話する場を位置付けて正しい語順や適切な文型が定着しているかを見届けるとともに、必要に応じて全体で復習したり、発話した英文を書き留めさせたり、家庭学習で復習させたりするなど、指導を工夫する。
- ・言語形式によらない応答の仕方についても、意思疎通を図る実践的なコミュニケーション活動を設定し、言語の働きに着目させながら第1学年で指導したことに加えて多様な例を示すなどして継続的に指導する。

場面や状況から、文脈や話し手の意向を推測し、適切に反応する指導の充実を！

- ・質問や依頼の1文だけでなく、前後の文も含めたものを読んだり聞いたりすることで、場面や状況や話し手、書き手の意向を理解することの大切さについて指導する。
- ・教科書等の読み物題材において、段落のタイトル付けや文の並べ替え等の活動を通して、文脈や話の流れを意識しながら読むことができるようにする。

伝えたい内容が正しく伝わるように、適切な語句や英文を使って書く指導の充実を！

- ・伝えたい内容をまずはっきりさせ、それらを伝えるためにどのような順序でどのような英語を使うとよいかなど、事実関係や順序等を整理して書くことができるようにする。その際、伝えたい内容に適した主語を考え、それに対応した動詞を設定するなど、主述関係を意識して英文をつくることができるよう指導する。
- ・教科書にある表現を参考にして、具体例を上げながら一つの内容に対して多様な表現ができることを示し、積極的に使ってみよう板書等を活用して指導する。

(3) 学習環境の工夫、学習集団の育成等

自然な英語に触れることができるCDやALT等の積極的な活用を！

- ・教師の英語発話量を増やしたりCDやALTを活用したりして、ある程度のまとまりがあり、自然な口調、スピードで話される英語を聞く機会を多く設定することを今後も大切にする。
- ・ALT等とのやりとりができる場面を多く設定し、様々な応答の仕方や場面による表現の違いを実践的に学べるようにする。

授業以外でも英語に触れることができる環境の充実を！

- ・英字新聞や英語の書籍を閲覧できるコーナーやALT等のコーナーを設置したりそれらを話題にししたりして、言語や文化への興味・関心を高める。

「書くこと」についての効果的な家庭学習の指導を！

- ・家庭において、一人でも毎日少しずつ繰り返せるように、書く内容や量を示し家庭学習のやり方を具体的に指導する。
 - (例)「ノート1ページを使って、『日曜日の過ごし方』という題で書こう」
「最近の授業で習った英語の表現を使い、次の日曜日にやってみたいことについて5文の英文で書いてみよう」等
- ・家庭学習で書いたことを授業の中で見届けたり発表させたりして、意欲が向上するように工夫する。

指導改善事例は、「岐阜県総合教育センターHP 教科教育等 学力向上P」授業改善(H16~18)及び授業改善推進プラン(H19~)」を参照する。[\(http://www.gifu-net.ed.jp/gec/\)](http://www.gifu-net.ed.jp/gec/)